

1 岩手県滝沢市 滝沢市役所若者活躍推進室

「若い世代の行政参加の取り組みと評価について」

企業振興や誘致は若者定住とセットでの取り組みが必要との考えのもと様々な施策が展開されていて参考になった。特に学生、企業、行政が一緒になっての事業展開が多く、就職前から滝沢市や地域と関連を持ちながら、学生の考えを活かしていくやり方はなるほどと考えさせられた。

ベースには市内に2つの大学があること、そしてその学生を対象に事業展開をできる点が当町の状況とは大きく異なり難しいかなと感じた。

2 岩手県滝沢市 ビッグルーフ滝沢

「大ホール、会議室、図書館、観光案内、産直、レストランなどの滝沢市交流拠点複合施設」

様々な交流拠点施設が集約されていて、その規模や各施設の充実内容には圧倒された。

百年先を見据えた交流拠点複合施設が造られており、公共の施設整備はロングレンジでの視点が大切と改めて感じさせられた。

3 岩手県紫波郡紫波町 オガール企画合同会社

「オガール循環型まちづくり・環境コース」

JR紫波中央駅前の10.7haを対象とする都市再生整備事業を官民連携でオガール企画が請け負い、計画的で斬新なまちづくりがされていた。複数の複合施設あり、オガールプラザは図書館を核に設計され、町内産木材を最大限活用し、すべて地元業者が施工するなど、地産地消・地域内経済循環を推進していた。

官民連携によるまちづくりが成功した要因としては藤原前町長やオガール企画岡崎氏のリーダーシップが大きいとされる。平成10年に28億余を掛け用地を先行取得し、平成12年には「新世紀未来宣言」を発表し循環型まちづくりに取り組んだ紫波町の長期的視点にたった姿勢が大きかったのではないかと思われる。

今回は行政側の話が聞けなかったのが残念であった。

4 岩手県紫波郡紫波町 紫波町役場

「NFTを活用したデジタル戦略について」

2022年6月「web3タウン」を表明。Furusato DAO構想の下で、新型地域通貨の発行やNFTを使ったデジタルアートの活用などを通じて、国内外の関係人口を増やし、地域課題の克服を図り最終的に暮らし心地の良いまちを目指す。また、地域住民が日常生活で行うボランティア活動や行政支援につながる活動に対してトークン(新型地域通貨)を発行し、協働によるまちづくりを目指すとのことであった。

5 岩手盛岡市 木伏緑地

「公設の都市公園。公民連携・民間主導による管理」

平成29年度の都市公園法改正により創設されたpark-pfi制度を利用して北上川沿いの木伏緑地に公衆トイレと民間収益施設を整備したもの。民間収益施設は飲食店が多く見られてそれなりの賑わいをもたらしていた。盛岡市という規模が成功の大きな要因を占めていると感じた。当町にあてはめた場合民間業者が出店できる利用者がいるかが鍵になるのではと思う。

全体を通じて

今回の視察では先を見通したまちづくりの大切さを痛感した。滝沢市の若者の行政参加や複合拠点施設ビッググループ、紫波町オガールのまちづくり、何れも当町にはないスケールの大きなそして明日のまちづくりに欠かせないものでした。まちづくりは基本となる大きな絵図から始めることが大事と学んだ研修でした。そして当町には基本となる絵図があるのかなと考えさせられた視察でした。